



ひまわり通信

No.00707. 2025.3.6(木)

健康寿命から貢献寿命へ

健康と豊かさの「天然物100年構想」を实践する日健総本社

●ドナリエラの登場

ベータカロチンが、がんの予防に有効な成分であることは、平山雄博士(前国立がん研究所疫学部長)の研究で一躍、クローズアップされた。平山博士は、「煙草を吸わないこと」「緑黄色野菜を毎日食べること」が、がん発生の予防に役立つと指摘した。というのは、緑黄色野菜には、多くのベータカロチンが含まれているからだ。

そのベータカロチンのかたまりみたいなのが、単細胞の緑藻ドナリエラだ。ドナリエラは熱帯地方の塩分の強い湖に生息している。日差しが強くなるとドナリエラは、自分の葉緑素を守るために、体を赤くするが、この赤いのがベータカロチンだ。ドナリエラの研究は、イスラエルのワイツマン研究所で25年ほど前からもっとも強力に進められた。前明治大学の岩本浩明博士、イスラエルのアミー・ベンアモツ教授が国際的に有名だ。

ちなみにベンアモツ教授は、イスラエル国立海洋科学研究所、イスラエル・ワイツマン基礎科学研究所教授で現在、日健総本社の研究開発顧問を兼任している。ワイツマン研究所と日健総本社の提携は、岩本博士の指導のもとで行われた。

研究の結果、天然のベータカロチンは、合成のベータカロチンと比較して抗がん力が強いことが動物実験でわかってきた。健康を保つためには、一日15ミリグラム(現在40ミリグラムが必要)のベータカロチンの摂取が必要だとされるが、これだけの量をとるには、大量の緑黄色野菜を食べなければならない。にんじん10本とかほうれん草なら3束か4束、トマトなら20個とか…、これは不可能に近い。

ドナリエラを応用すると、ほんのわずかで必要なベータカロチンを摂ることができる。たとえば、日健総本社のスーパー緑黄色野菜「ドナリエラ」(商品名)なら、3粒で十分だ。ドナリエラ研究では、イスラエルの科学者の研究グループ(ドナリエラクラブ)を紹介され、やがて岩本博士と研究所の著名なドナリエラ研究者2人の指導のもとに「ドナリエラ」を製造することになった。

そのメンバーの一人が前述のベンアモツ教授である。現在国立イスラエル海洋湖沼科学研究所の教授であり、もう一人のメンバー故アブロン教授は、イスラエル・ワイツマン基礎科学研究所の副所長であった。

このように、日健総本社の商品開発には、世界第一級の科学者がバックアップしているのだ。日健総本社の商品は、昨日今日でできたものではない。科学者と企業が一致協力して、地球の健康と取り組んだ成果なのだ。一粒の「ドナリエラ」や「クロスタニン」には、日健総本社の健康社会づくりへの限りない願いがこめられているのである。

田中美穂の「生きる法則」鶴時靖夫 著 1994.10.13初版発行

イスラエルの赤い宝石「ドナリエラ」愛の一粒運動実施中！！

(株)日健総本社 兵庫特約店

(有)クロスタニンひまわり

☎ 0120-42-8198